

# 容器の取り扱い方法

## 検体の採取・取り扱い方法

### 血液

[採血時間] 一般的に早朝安静空腹時(緊急性や指定条件を除き)を原則としています。

[検体採取]

- 血液 所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和させ、特に指定が無い場合、室温および冷蔵保存の場合はこのままで、凍結保存の場合は提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。
- 血清 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。  
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ、凝固を確認後、遠心分離してください。  
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。  
保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の保存条件をご参照ください。
- 血漿 必要量の3倍量を目安に血液を採血してください。  
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後、速やかに転倒混和し、遠心分離してください。  
遠心分離後、上清を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。  
採取方法および保存条件は検査項目により異なりますので、各検査項目の備考および保存条件、容器の取り扱い方法をご参照ください。  
容器の規定採血量より少ない場合、項目によってはデータに影響を及ぼすことがあります。必ず指定容量を採取してください。

[注意事項]

- 真空採血にあたり  
容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず、指定容量を採取してください。
- シリンジ採血にあたり  
シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。
- 溶血を避けるにあたり  
採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。  
十分に乾燥した採血容器を用いてください。  
物理的的刺激(極度の高温や低温、振動など)を避けてください。

### 尿

[部分尿]

採尿容器に尿を採取して、必要量を提出容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。

採尿時間を指定している検査項目もありますので、各検査項目の備考および容器の取り扱い方法をご参照ください。

[24時間蓄尿]

蓄尿開始時に完全に排尿させ(捨てる)、それ以降の翌日同時刻までに排尿した尿の全てを蓄尿容器に採尿します。蓄尿の間は、蓄尿容器に蓋をして冷暗所にて保存してください。

蓄尿終了後、蓄尿量を測定し、よく混和させ必要量を提出容器に移し蓄尿時間と蓄尿量を記入のうえ、指定の保存条件にてご提出ください。

○酸性蓄尿

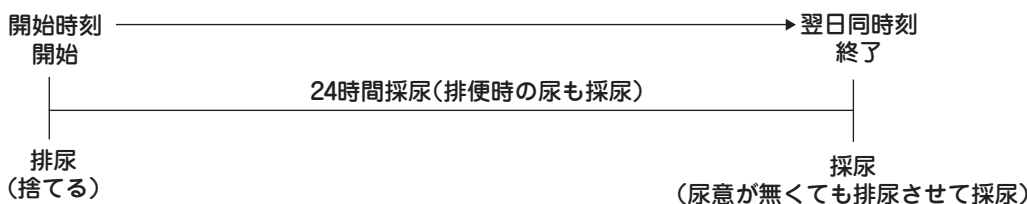
検査項目により、防腐・安定化などを目的に当社では、下記の蓄尿時に尿を酸性化する方法を採用しております。ただし、これらの方法にて酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、ご依頼いただく各検査項目の備考を必ずご参照ください。

1.防腐剤を使用する方法

蓄尿量にかかわらず、専用防腐剤(錠剤と顆粒)全てを蓄尿容器に入れて蓄尿します。

2.塩酸を使用する方法

規定量の6Nの塩酸を蓄尿容器に入れて蓄尿します。(添加する詳細な規定量や注意事項は各検査項目の備考をご参照ください。)



## 凝固検査用検体のご提出方法 (凝固検査検体取扱いに関するコンセンサスより抜粋)

### [採血管]

- ・容器の素材は、プラスチック製もしくはシリコン処理済みガラス製を使用する
- ・抗凝固剤には、0.105～0.109M(3.13～3.2%)クエン酸ナトリウム溶液を使用する
- ・クエン酸ナトリウム溶液と血液の比率は1:9とし、許容採血量は公称採血量±10%までとする
- ・患者のヘマトクリット値(Ht)が55%以上の場合はクエン酸ナトリウム溶液を調整する

### [採血]

JCCLSの標準採血法ガイドラインGP4-A3に従う

- ・真空採血、注射器採血のいずれの組み合わせも使用可とする
  - 採血針を用いた真空採血：1番目に凝固検査用採血管もしくは血清用採血管で採血する
  - 翼状針を用いた真空採血：1番目にダミーの採血管もしくは他の検査用採血管で採血後、凝固検査用採血管で採血する
  - 注射器採血：1番目に凝固検査用採血管に血液を分注する
- ・最低限の血流うっ滞(駆血帯処理)で清潔に穿刺する
- ・個別の状況に応じて対応することも可能とするため、21～23Gの注射針あるいは翼状針を使用する
- ・ヘパリンが混在する静脈ラインは使用不可である
- ・正確な血液量が採血管に流入したことを確認し、血液と抗凝固剤は速やかに5回程度泡立たぬよう転倒混和する

### [遠心分離]

- ・遠心分離の温度設定は室温(18～25℃)にコントロールする
- ・平均遠心重力は1500×gで最低15分間、または2000×gで最低10分間の遠心分離処理を推奨する
- ・血小板の混入は測定結果に影響するため、残存血小板数を1万/ $\mu$ L未満になるようパフィーコートから最低5mm離れた上清を使用する

### [凝固検体の確認]

採血困難な患者を中心に検査室到着時にすでに凝結が確認できる検体があり、遠心前に凝結を視認した場合は、再採血による検査続行か検査中止の確認を臨床側と相談する。

### [補足]

CLSI Approved guideline 5<sup>th</sup> ed H21-A5では、Vascular access device(VAD)からの採血では、エアリークが無いことを確認し、可能な限りヘパリンフラッシュを避け、ヘパリンの混入あるいは希釈を避けることが明記されている。具体的にはまず生食5mLでフラッシュ、続いて5mLあるいはVADのdead spaceの6倍容量の血液を廃棄したのち検体を採取する。生食ロック(cap-off intravenous port)からの採血ではカテーテルと延長セット(extension set)dead spaceの2倍量を廃棄することが明記されている。

### <参考>

- 1.日本検査血液学会標準化委員会凝固検査標準化ワーキンググループ  
凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス 日本検査血液学会雑誌 17, 149-168, 2016.
- 2.leko M et al : expert consensus regarding standardization of sample preparation for clotting time assays. Int J Hematol 112; 614-620, 2020

## 専用容器について

各頁掲載の専用容器は当社にて準備してございますので最寄りの営業所・営業拠点までお申し付けください。  
なお、有効期間につきましては目安とお考えください。

## 分割販売について

当社は、お客様からの指示に基づき、容器の被包等を開き、小包装単位で販売(分割販売)を行う場合があります。この場合、お客様には以下の事項をご承諾いただくものとします。

- ①分割販売の対象となる容器について、その製造者が開示または能書に記載している有効期限内の品質保証が担保されない場合があること。
- ②分割販売の対象となる容器は、その受領後速やかに使用する必要があること。
- ③分割販売された容器について、当社は法律上の契約不適合責任を負わないこと。

## ラベル貼付済み容器の取り扱いについて

当社は、お客様からの指示のもと、容器に所定のラベルを貼り付ける場合があります。この場合、容器の販売に関する契約・発注書等の記載にかかわらず、ラベル貼付の対象となる容器の所有権は、お客様から容器のご発注を頂いた時点でお客様に移転するものとします。

# 容器の取り扱い方法

## 容器形態

**A00**

貯蔵方法 室温

旧容器記号

X

X3



ポリスピッツ

(尿専用)

## 容器形態

**ARR**

貯蔵方法 室温

旧容器記号

r



滅菌ポリスピッツ

## 容器形態

**ASS**

貯蔵方法 室温

旧容器記号

i



遮光ポリスピッツ

## 容器形態

**AZZ**

酸洗浄済みのポリスピッツ  
貯蔵方法 室温


旧容器記号


Z




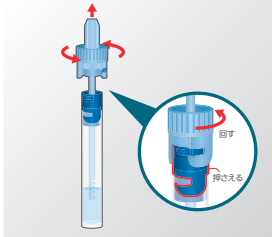
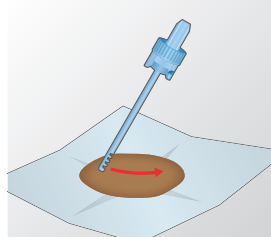

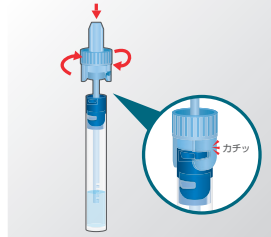
金属検査


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>F00</b> 旧容器記号 <b>U</b>  糞便容器 貯蔵方法 室温	アデノウイルス DNA 定性		糞便 500mg		糞便500mgを左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	ノロウイルス抗原		糞便 各小指先大	凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
	ノロウイルスRNA定性				
	便中カルプロテクチン		糞便 1g		糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、必ず凍結保存してください。
	虫卵〔塗抹〕		糞便 各拇指頭大	冷蔵	糞便1g(拇指頭大)を左図の容器に入れ、冷蔵保存してください。
	虫卵〔集卵〕				
	消化状態				
赤痢アメーバDNA 定性		糞便 0.5g	凍結	糞便の中央部より0.5g(小指先大)を左図の容器に入れ、速やかに凍結保存してください。	

容器形態	検査項目	採取方法
<b>F20</b> 旧容器記号 <b>d4</b> 便中ヘリコバクターピロリ抗原専用容器  内容 ほう酸1mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	便中ヘリコバクター ピロリ抗原 冷蔵	1.(準備)容器の白ラベルを途中まではがし氏名・日付等を記入し、また巻いてください。ピンクの採便棒を回して引き抜いてください。 2.(便をとる)採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとってください。 3.(便をとったあと)採便棒を容器にもどして根元までしっかりねじ込んでください。再び開けないでください。 4.(保管上の注意)添付のビニール袋に入れて提出まで冷暗所に保管してください。採便後は、すみやかに提出してください。 (注)出来るだけ新しい便を提出してください。 (注)採便容器の緑キャップは、絶対にはずしたり、ゆるめたりしないでください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存
<b>F30</b> 旧容器記号 <b>d9</b> 	便中カルプロテクチン(FEIA)	凍結
	採取方法	
	 <p>1. キャップの青色部分を押さえながら、その上の水色部分を左に回し、スティックを引き抜きます。</p>	 <p>2. スティック先端の4つの溝が、十分に埋まるように便をこすり取ります。</p>
	 <p>3. スティックの先端についた便をトイレットペーパーなどで取り除きます。</p>	 <p>4. スティックを容器に差し込み、キャップの水色部分が青色部分にカチッとハマるまで右に回します。</p>
内容 トリス緩衝液 BSA アジ化ナトリウム (0.1%以下) 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から24ヵ月	<p>●注意事項                      容器中の保存液が、目や口に入ったり皮膚に付着したりしないようご注意ください。誤って付着した場合は水で十分に洗い流してください。</p>	

容器形態	検査項目	保存	採取方法
<b>F80</b> 旧容器記号 <b>d8</b> 	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン	冷蔵	<p>●採取方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャップを回してスティックを取り出し、便の表面をまんべんなくこすり採ります。</li> <li>2. 1回だけ差し込み、キャップをしっかりと締めます。</li> <li>3. 袋に入れ冷蔵保存し、ご提出ください。</li> </ol> <p>●注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 容器の中の保存液は捨てないでください。</li> <li>2. 便は溝が埋まるくらい採ります。採りすぎ、少なすぎにご注意ください。</li> </ol> 採便時の食事制限はありません。
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(1回目)		
	便中ヘモグロビン及びトランスフェリン(2回目)		
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕		
	便中ヘモグロビン定性〔金コロイド法〕		
	便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕	1回目		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕	2回目		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕	1回目		
便中ヘモグロビン定量〔金コロイド法〕	2回目		
内容 保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年			

# 容器の取り扱い方法


容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>H00</b> 旧容器記号 <b>H</b></p>  <p>採取後 H00 項目氏 保存液入り マルク用 男・女 採取日 検体貯蔵方法 有効期限 15</p> <p>保存液入り (容器容量5mL)</p> <p>内 容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES</p> <p>貯蔵方法 凍結</p> <p>有効期間 色が薄いピンク の状態で使用し てください。(凍 結時は淡黄色で すが解凍すると 薄いピンク色に 戻ります。)</p>	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	多発性骨髄腫解析検査 CD38マルチ解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)				リンパ節 5×5× 5mm
	染色体 G-Banding	骨髄液 1.0	骨髄液 (保存液加) 1.0		
	ALK 2p23転座				骨髄液 各1.0
	IGH-FGFR3 t(4;14)転座				
	FIP1L1-PDGFR del(4)長腕欠失 (4q12欠失)				
	CSF1R del(5)長腕欠失				
	PDGFRB 5q33転座				
	D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
	血液疾患染色体 8染色体				
MYC 8q24転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。		

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>H00</b> 旧容器記号 <b>H</b></p>  <p>保存液入り (容器容量5mL)</p> <p>内容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボヘパリンNa 炭酸水素Na HEPES</p> <p>貯蔵方法 凍結</p> <p>有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)</p>	IGH-MYC t(8;14)転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	RUNX1-RUNX1T1 (AML1-MTG8) t(8;21)転座	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	BCR-ABL1 t(9;22)転座				
	IGH-CCND1 (IGH-BCL1) t(11;14)転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		骨髄液 1.0	骨髄液 (保存液加) 1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	BIRC3-MALT1 (API2-MALT1) t(11;18)転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0		骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	血液疾患染色体 12染色体				
	IGH-BCL2 t(14;18)転座	リンパ節 5×5× 5mm	リンパ節 (保存液加) 5×5×5mm		リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	IGH-MAF t(14;16)転座				
	PML-RARA t(15;17)転座				
	CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				
	TP53 del(17)短腕欠失				
	del(20)長腕欠失				
血液疾患染色体 X染色体	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0	骨髄液1.0mLを左図の容器に無菌的に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。		
血液疾患染色体 Y染色体					
異性間BMT(骨髄移植) (X,Y染色体)					
FLT3/ITD 変異解析					
FLT3変異解析 ITD/TKD			左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。		

# 容器の取り扱い方法




容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>H00</b> 旧容器記号 <b>H</b> 	白血病キメラ スクリーニング(定量)	骨髄液 各1.0	骨髄液 (保存液加) 各1.0	冷蔵	指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	WT1 mRNA定量				
	Major BCR-ABL1 mRNA定量				
	Major BCR-ABL1 mRNA定性				
	Major BCR-ABL1 ABL1 変異解析				
	minor BCR-ABL1 mRNA定量				
	minor BCR-ABL1 mRNA定性				
	minor BCR-ABL1 ABL1 変異解析				
	PML-RARA mRNA定量				
	PML-RARA mRNA定性				
	CBFB-MYH11 mRNA定量				
	RUNX1-RUNX1T1 mRNA定量				
	RUNX1-RUNX1T1 mRNA定性				
T細胞レセプター β鎖Cβ1再構成					
免疫グロブリン H鎖JH再構成					
免疫グロブリン H鎖Cμ再構成					
保存液入り (容器容量5mL) 内 容 RPMI-1640 FBS 硫酸カナマイシン ノボパリンNa 炭酸水素Na HEPES 貯蔵方法 凍結 有効期間 色が薄いピンクの状態で使用してください。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります。)					

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>H20</b> 旧容器記号 <b>H2</b> 	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	リンパ節 各5×5×5mm	リンパ節 (保存液加) 各5×5×5mm	冷蔵	リンパ節5×5×5mmを左図の容器に浮遊させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
	悪性リンパ腫解析検査 7AAD解析 (造血器悪性腫瘍細胞検査)				
保存液入り (容器容量10mL) 内 容 FBS PBS 硫酸カナマイシン 貯蔵方法 凍結 有効期間 製造から 1年					

容器の取り扱い方法




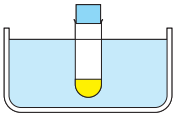

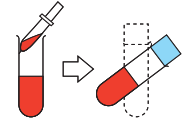
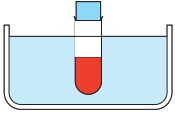
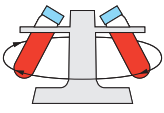
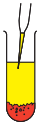
# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法	
<b>M30</b> 旧容器記号 <b>r3</b> 	除蛋白液入り (内容量1mL)  内 容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	乳酸   ピルビン酸	血液 各1.0	速やかに遠心 除蛋白液 各0.4	冷蔵	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液をご提出ください。
<b>M40</b> 旧容器記号 <b>r4</b> 	除蛋白液入り (内容量4mL)  内 容 タングステン酸Na、 硫酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	アンモニア	血液 1.0	速やかに遠心 除蛋白液 3	凍結	採血後、直ちに正確に血液1.0mLを専用容器に加え、充分攪拌後3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を必ず凍結してご提出ください。
<b>M50</b> 旧容器記号 <b>r5</b> 	除蛋白液入り (内容量0.5mL)  内 容 0.8N過塩素酸 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年	遮光 ビタミンC (アスコルビン酸)	血清 0.5	除蛋白上清 0.5	凍結	採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器に加え、充分攪拌後、3000rpm5分間遠心分離し、その上清液を遮光ポリスピッツ(ASS)に移し替え、凍結してご提出ください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PAC</b> 旧容器記号 <b>B</b> 	ACD-A保存液入り 内容 ACD-A保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	<b>PAIgG            (血小板関連IgG)</b> 血液 7.5	血液 (ACD-A液加) 7.5	冷蔵	指定の採血量を採血し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 (注)末梢血の血小板数が $3 \times 10^4 / \mu\text{L}$ 以下の場合、専用容器2本を使用し、必ず10mL以上採血してください。
容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PAP</b> 旧容器記号 <b>D</b> 	EDTA-2Na+ アプロチニン入り (真空採血量3mL) 内容 EDTA-2Na 3.75mg アプロチニン (1500単位) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	<b>副甲状腺ホルモン            関連蛋白(PTHrP)</b> 血液 各1.5~2.0	冷却 遠心 血漿 0.5	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	<b>甲状グルカゴン</b>	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離し、直ちに凍結保存してください。		
	<b>ヒト心房性ナトリウム            利尿ペプチド(HANP)</b>	速やかに 冷却遠心 血漿 0.5	安静時に指定の採取量を左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。		

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法																													
 <p><b>PBT</b> 旧容器記号 <b>Q</b></p> <p>β-トロンボグロブリン(β-TG)</p>		凍結	 <p>あらかじめ専用容器(PBT)を冷却しておいてください。</p>	<p>砕氷水の水面より専用容器中の液面が下になるようにしてください。角氷は使用しないでください。</p>																												
			 <p>できるだけ20ゲージ(19~21ゲージでも可)の針を用いたプラスチック注射器で血液3.0mLを採取してください。(採血にあたって、専用容器(PBT)を使用しての直接採血は絶対しないでください。)</p>	<p>真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。また、駆血帯も使用しないでください。10mL以上の採血は避け、出来るだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。</p>																												
<p>開封後速やかに使用すること</p> <p>NP-TG0275-1</p> <p>β-TG(PF-4) 抗原(EDTA)回</p> <p>真空採血禁止</p> <p>抗血小板剤入り</p> <p>内容物</p> <p>テオフィリン アデノシン ジピリダモール クエン酸ナトリウム クエン酸</p> <p>貯蔵方法 遮光・冷蔵 有効期間 製造から1年</p>	血小板第4因子(PF-4)	凍結	 <p>針を取って静かに専用容器(PBT)のフタを開け、血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2~3回転倒混和してください。</p>	<p>指定の専用容器以外は使用しないでください。専用容器は振とうさせないでください。</p>																												
			 <p>専用容器を速やかに砕氷と水の入ったラックに入れてください。</p>	<p>砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにしてください。</p>																												
<b>以上の操作を2分以内に行ってください。</b>																																
			 <p>砕氷水に15~30分間放置後、採取血液を2000Gで30分間、2~4℃で遠心分離してください。(右表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示します。) * 遠心機回転数の計算式 <math>G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2</math> r: 遠心機のローター半径(cm) n: 1分間あたりの回転数(rpm)</p>	<p>1時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。</p> <p style="text-align: center;">換 算 表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>半 径 (cm)</th> <th>回 転 数 (rpm)</th> <th>半 径 (cm)</th> <th>回 転 数 (rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>4200</td> <td>22</td> <td>2800</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3800</td> <td>24</td> <td>2700</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3500</td> <td>26</td> <td>2600</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>3300</td> <td>28</td> <td>2500</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>3100</td> <td>30</td> <td>2400</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>3000</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	半 径 (cm)	回 転 数 (rpm)	半 径 (cm)	回 転 数 (rpm)	10	4200	22	2800	12	3800	24	2700	14	3500	26	2600	16	3300	28	2500	18	3100	30	2400	20	3000		
半 径 (cm)	回 転 数 (rpm)	半 径 (cm)	回 転 数 (rpm)																													
10	4200	22	2800																													
12	3800	24	2700																													
14	3500	26	2600																													
16	3300	28	2500																													
18	3100	30	2400																													
20	3000																															
			 <p>上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで1項目につき0.3mL検体容器へ採取してください。血餅に近い部分からの採取は絶対に避けてください。(血漿の全量採取は避けてください。) 検体は必ず凍結保存してください。(1ヵ月安定)</p>																													


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PC2</b> 旧容器記号 <b>K</b></p>  <p>3.2%クエン酸 ナトリウム入り (真空採血量1.8mL)</p> <p>内 容 3.2%クエン酸Na 0.2mL</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から 1年 (25本入りプラスチックケース開封後1ヵ月)</p> <p>3.2%クエン酸 ナトリウム入り (真空採血量2.7mL)</p> <p>内 容 3.2%クエン酸Na 0.3mL</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から 1年</p>	ヘパリン	血液 各1.8	速やかに遠心 血漿 0.3	凍結	<p>[シール栓容器で採血する場合] 3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)</p> <p>[ヘモガード™キャップ容器で採血する場合] 3.2%のクエン酸ナトリウム0.3mLに血液2.7mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目を依頼する場合で採血量が2.7mL以上の場合は、(PC5)の容器をご利用ください。)</p> <p><b>[注意事項]</b> * トータルPAI-1につきましては以下の点にご注意ください。 1. 採取容器は(PC2)を用い、必ず冷却遠心してください。室温遠心や容器(PC5)での採血はデータが高値となるため、避けてください。 2. 速やかに分離できない場合は、氷水中に保存し、1時間以内に分離してください。</p>
	活性化部分 トロンボプラスチン時間 (APTT)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
	プロトロンビン時間 (PT)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
	フィブリノーゲン (FIB)		速やかに遠心 血漿 0.4		
	可溶性フィブリンモノマー 複合体(SFMC)		速やかに遠心 血漿 0.5		
	フィブリンモノマー 複合体定量		速やかに遠心 血漿 0.3		
	FDP定量		速やかに遠心 血漿 0.5		
	Dダイマー		速やかに遠心 血漿 0.3		
	プロトロンビン フラグメントF1+2		速やかに遠心 血漿 各0.5		
	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ)		速やかに遠心 血漿 各0.5		
	トロンビン・ アンチトロンビンⅢ 複合体(TAT)		速やかに遠心 血漿 0.2		
	プラスミノーゲン		速やかに冷却遠心 血漿 0.5		
	アンチプラスミン ( $\alpha_2$ プラスミンインヒビター)		速やかに遠心 血漿 各0.3		
	$\alpha_2$ プラスミンインヒビター・ プラスミン複合体(PICテスト)				
トータルPAI-1 (tPA・PAI-1複合体)					
凝固因子 活性検査 第Ⅷ因子(F8) (合成基質法) 第Ⅸ因子(F9) (合成基質法)					

# 容器の取り扱い方法




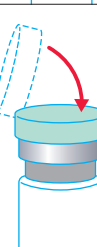
容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法		
 <p><b>PC2</b> 旧容器記号 <b>K</b></p> <p>3.2%クエン酸 ナトリウム入り (真空採血量1.8mL)</p> <p>内容 3.2%クエン酸Na 0.2mL</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から1年 (25本入りプラスチックケース 開封後1ヵ月)</p>	第Ⅱ因子 (F2)	血液 各1.8	速やかに遠心	凍結	<p>[シール栓容器で採血する場合] 3.2%のクエン酸ナトリウム0.2mLに血液1.8mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目をご依頼される場合で、採血量が1.8mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)</p> <p>[ヘモガード™キャップ容器で採血する場合] 3.2%のクエン酸ナトリウム0.3mLに血液2.7mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。 (複数の検査項目を依頼する場合で採血量が2.7mL以上の場合、(PC5)の容器をご利用ください。)</p>		
	第Ⅴ因子 (F5)						
	第Ⅶ因子 (F7)						
	第Ⅷ因子 (F8)						
	凝固因子活性検査						
	第Ⅸ因子 (F9)						
	第Ⅹ因子 (F10)						
	第Ⅺ因子 (F11)						
	第Ⅻ因子 (F12)						
	第Ⅻ因子 (F13)						
	フォン・ウィルブランド因子抗原定量					速やかに遠心	血漿 0.2
	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)					速やかに遠心	血漿 0.5
	ADAMTS13-活性					速やかに遠心	血漿 0.3
	ADAMTS13インヒビター					速やかに遠心	血漿 0.6
	3.2%クエン酸ナトリウム入り (真空採血量2.7mL)					速やかに遠心	血漿 0.3
内容 3.2%クエン酸Na 0.3mL	速やかに遠心	血漿 0.4					
貯蔵方法 室温	速やかに遠心	血漿 0.2					
有効期間 製造から1年	速やかに遠心	血漿 0.4					
プロテインC (抗原量)	速やかに遠心	血漿 0.2					
プロテインC活性	速やかに遠心	血漿 0.4					
プロテインS (抗原量)	速やかに遠心	血漿 0.2					
プロテインS活性	速やかに遠心	血漿 0.4					
プロテインS (遊離型抗原量)	速やかに遠心	血漿 0.2					
トロンボモジュリン	速やかに遠心	血漿 0.4					
HIT抗体 (血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体)	速やかに遠心	血漿 0.5					
C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性)	速やかに遠心	血漿 0.2					


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PC5</b> 旧容器記号 <b>L</b> 	<b>遮光</b> ビタミンK分画		血漿 2.0		3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず「遮光ポリスピッツ」(ASS)にてご提出ください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	第Ⅷ(8)因子 凝固抑制因子検査	血液 各4.5	血漿 各1.0	凍結	3.2%のクエン酸ナトリウム0.5mLに血液4.5mLの割合で採血し、転倒混和を5～6回繰り返した後、速やかに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	第Ⅸ(9)因子 ループスアンチコアグラント			血漿 1.0	


容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PE2</b> 旧容器記号 <b>T3</b> 	(真空採血量2mL) エンドトキシン定量		血液 (ノボヘパリン加) 各2.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和してください。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存してください。 β-D-グルカン以外との重複依頼は避けてください。
	ノボヘパリン 15IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年 β-D-グルカン				左図の容器に採血し、よく混和してください。速やかに冷蔵保存してください。 エンドトキシン定量以外との重複依頼は避けてください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	採取方法
<b>PE4</b> 旧容器記号 <b>T4</b>  (真空採取量：4.0mL) 内容 安定化剤 0.1mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から1年	A液	透析液 (安定化剤入) 各4.0		冷蔵	<b>1</b>  PE4容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。
	B液				<b>2</b>  無菌的に透析液を注射針付きのシリンジで採取し、PE4容器のゴム栓部に刺します。
	RO水				<b>3</b>  注入が終わりましたら、カラーキャップを元通りに被せ、直ちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜ、速やかに冷蔵保存し、提出してください。
	調整液				
	その他				


容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PF2</b> 旧容器記号 <b>E</b>  内容 フッ化Na 2.5mg ヘパリンNa 25uspu EDTA-2Na 7.4mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年	グルコース	血液 1.5~2.0	血漿 0.6	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	ヘモグロビンA1c (HbA1c) (NGSP)	血液(フッ化Na加) 2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	グリコアルブミン	血液 2.0	血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b>   ヘパリン入り (真空採血量5mL)  内容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年	γ-アミノ酪酸 (GABA)	血液 3.0	速やかに遠心 血漿 1.0	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、直ちに血漿分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	脂肪酸分画(24成分)	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.5	冷蔵	早朝空腹時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	脂肪酸分画(4成分)				
	極長鎖脂肪酸	血液 4.5~5.0	血漿 2.0		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は凍結保存してください。
	リポ蛋白質リパーゼ (LPL)	血液 1.5~2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.3	凍結	早朝空腹時にヘパリンを体重1kgあたり30単位静注し、15分後に左図の容器に採血し低温(4℃)で遠心分離してください。 血漿は必ず凍結保存してください。
	ニコチン酸 (ナイアシン)	血液 (ヘパリン加) 1.5			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	鉛(Pb)	血液 (ヘパリン加) 3.0			
	クロム	血液 (ヘパリン加) 0.7			
	カドミウム	血液 (ヘパリン加) 0.5			
	マンガン	血液 (ヘパリン加) 0.7			
	エタノール	血液 (ヘパリン加) 1.0		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
	ポリコナゾール	血液 各1.5~2.0	血漿 0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	カルバマゼピン		血漿 0.2		
	エトスクシミド		血漿 0.5		
	フェノバルビタール		血漿 0.2		
フェニトイン	血漿 各0.3				
プリミドン					
バルプロ酸			血漿 0.2		



# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b></p>  <p>ヘパリン入り (真空採血量5mL)</p> <p>内 容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年</p>	ガバペンチン	血液 各1.5~2.0	血漿 各0.3	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。 血漿は冷蔵保存してください。
	ラモトリギン				
	トピラマート				
	レベチラセタム				
	スチリペントール				
	ペランパネル				
	ラコサミド				
	アミオダロン				
	ベプリジル				
	アブリンジン				
	ジソピラミド	血漿 0.4			
	プロカインアミド				
	プロプラノロール	血漿 各0.3			
	ピルシカイニド				
	シベンゾリン				
	ピルメノール	血液 3.0~4.0	血漿 1.3		
	キニジン	血液 各1.5~2.0	血漿 0.4		
フレカイニド	血漿 0.3				
テオフィリン	血漿 0.2				
メトトレキサート	血漿 0.5				


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法	
<b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b>	CCR4タンパク [FCM]	血液 (ヘパリン加) 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。	
	結核菌特異的 IFN- $\gamma$				左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(18~25℃)してください。 検体は採取後、速やかにご提出ください。	
	プレセプシン	血液 1.5~2.0	速やかに遠心 血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血後、2~3回軽く転倒混和し、速やかに血漿分離してください。 ボルテックスミキサーなどによる激しい攪拌、緩やかな長時間攪拌、凍結融解はデータが高値となるため避けてください。 他項目との重複依頼は避けてください。	
	CD34定量	血液 (ヘパリン加) 5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 DMSO含有の場合は、凍結保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。	
	赤血球表面マーカー検査 CD55	血液 (ヘパリン加) 各1.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。	
	赤血球表面マーカー検査 CD59					
	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)	血液 (ヘパリン加) 各5.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。	
	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング (造血器悪性腫瘍細胞検査)					
	T細胞百分率 B細胞百分率	血液 (ヘパリン加) 3.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17~25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。	
	B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig)	IgG	血液 (ヘパリン加) 各1.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17~25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 (3項目以上依頼の場合は3.0mL) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
		IgA				
		IgM				
IgD						
K						
L						
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	血液 (ヘパリン加) 各3.0				左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 (10項目以上の場合は血液5.0mL採血してください。) 検体は採取後、当日中にご提出ください。	
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査						




ヘパリン入り (真空採血量5mL)  
 内容  
 ヘパリンNa 65IU  
 貯蔵方法 室温  
 有効期間 製造から 2年


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b></p>  <p>ヘパリン入り (真空採血量5mL)</p> <p>内 容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年</p>	G-Banding	血液 (ヘパリン加) 各3.0	血液 (ヘパリン加) 各3.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
	先天異常染色体				
	C-Banding				
	Q-Banding				
	高精度分染法				
	脆弱X染色体 (脆弱X症候群)				
	7染色体 (ウイリアムス症候群)				
	先天異常染色体 13染色体				
	15染色体 (プラダーウイリ症候群)				
	15染色体 (アンジェルマン症候群)				
17染色体 (ミラーディカー症候群)					
先天異常染色体 18染色体					
先天異常染色体 21染色体					
22染色体(22q11欠失) (CATCH22) conotruncal anomaly face症候群 velo-cardio-facial症候群 DiGeorge症候群					
先天異常染色体 X染色体					


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b></p>  <p>ヘパリン入り (真空採血量5mL)</p> <p>内 容 ヘパリンNa 65IU</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から 2年</p>	先天異常染色体 Y染色体	血液 (ヘパリン加) 各3.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	Y染色体(睾丸決定遺伝子SRY)				
	X,Y染色体(身長関連遺伝子SHOX)				
	血液疾患染色体 G-Banding	血液 (ヘパリン加) 各5.0			
	ALK 2p23転座				
	IGH-FGFR3 t(4;14)転座				
	FIP1L1-PDGFR del(4) 長腕欠失(4q12欠失)				
	CSF1R del(5)長腕欠失				
	PDGFRB 5q32転座				
	D7S486 del(7)長腕欠失/ 7染色体(7モノソミー)				
	血液疾患染色体 8染色体				
	MYC 8q24転座				
	IGH-MYC t(8;14)転座				
RUNX1-RUNX1T1 (AML-MTG8) t(8;21)転座					
BCR-ABL1 t(9;22)転座					

# 容器の取り扱い方法


容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PH5</b> 旧容器記号 <b>G</b></p>  <p>ヘパリン入り (真空採血量5mL)</p> <p>内 容 ヘパリンNa 65IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年</p>	末梢血好中球 BCR-ABL1 t(9;22)転座	血液 (ヘパリン加) 各5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は採取後、速やかにご提出ください。 採血後30時間以上経過した血液を使用した場合、細胞の形態的变化により、判定に影響がでる場合があるため検査できません。
	IGH-CCND1 (IGH-BCL1) t(11;14)転座				
	BIRC3-MALT1 (API2-MALT1) t(11;18)転座				
	血液疾患染色体 12染色体				
	IGH-BCL2 t(14;18)転座				
	IGH-MAF t(14;16)転座				
	PML-RARA t(15;17)転座				
	CBFB inv(16)逆位、 t(16;16)転座				
	TP53 del(17)短腕欠失				
	del(20)長腕欠失				
	血液疾患染色体 X染色体				
	血液疾患染色体 Y染色体				
異性間BMT(骨髄 移植)(X, Y染色体)					
FLT3変異解析 ITD/TKD	血液 (ヘパリン加) 3.0			冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PH9</b> 旧容器記号 <b>I</b>  ヘパリン入り (真空採血量10mL) 内 容 ヘパリンNa 130IU 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	PHAによるリンパ球 幼若化検査	血液 (ヘパリン加) 各5.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存(17~25℃)してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。 (2項目同時依頼の場合は8.0mL) 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	Con-Aによるリンパ球 幼若化検査				
	薬剤によるリンパ球 刺激試験(DLST)	1薬剤 血液 (ヘパリン加) 12.0	1薬剤につき指定の容器(2本)に採血し、よく混和させ、必ず室温保存してください。 1.1薬剤増ごとに血液5.0mL必要となります。 2.1薬剤で500万個のリンパ球が必要となります。場合により検査に必要なリンパ球数が得られず、検査不能となる場合があります。 3.目安として白血球数が3000mm <sup>3</sup> 以下の場合は倍量程度を採血しご提出ください。 なお、詳しい白血球数とリンパ球%が判明している場合は、担当営業員までお問い合わせください。 4.2項目以上ご依頼の場合は、必ず優先順位をご指示ください。 5.血液と同時に依頼薬剤もご提出ください。錠剤(1錠)、カプセル(1カプセル)、粉末(1回投与量程度1包)、リキッドタイプの飲み薬(0.5mL程度)、注射薬(1バイアル【アンプル】) 皮内反応テストアンプルは微量のため検査できません。その他の薬剤以外で検査をご依頼の場合は、担当営業員までご連絡ください。 6.ヘパリンが起因薬剤と疑われる場合は全て専用容器(PNK)に採血しご提出ください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。		
	MLC (リンパ球混合培養)	血液 (ヘパリン加) (受給者) 20.0 (提供者) 10.0 (非血縁者) 10.0			受給者(Recipient)血液20.0mL(2本)と提供者(Donor)血液10.0mL(1本)、非血縁者血液 10.0mL(1本)を左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。 MLCはリンパ球を無菌状態で培養しますので、採取容器の開栓、検体の移し替えは避けてください。 容器のラベルに施設名、氏名を記入してください。 なお、リンパ球が少ない場合は多めに採血してください。

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PHS</b> 旧容器記号 <b>G3</b>  ヘパリン入り (真空採血量4mL) 内 容 ヘパリンNa 83.6単位 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 18ヵ月 (アルミ包装 開封後1ヵ月)	遮光 コプロポリフィン	血液 (ヘパリン加) 各1.5		冷蔵	左図の遮光容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 血液は必ず遮光容器にてご提出ください。
	遮光 ウロポリフィン				
	遮光 プロトポリフィン				



# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PK2</b> 旧容器記号 <b>g</b> 	白血球数(WBC)	血液 (EDTA-2K加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、直ちに5回以上軽く転倒混和させ、冷蔵保存してください。 溶血、凝固および凍結検体は測定できません。 検体は採取後、当日中にご提出ください。
	赤血球数(RBC)				
	血色素量(Hb)				
	ヘマトクリット値(Ht)				
	血小板数(PLT)				
	平均赤血球容積(MCV)				
	平均赤血球色素量(MCH)				
	平均赤血球血色素濃度(MCHC)				
	好酸球数				
	網状赤血球数(RET)				
	末梢血液像				
	細胞数<胸水>	胸水1.0		室温	左図の容器に採取し、よく混和させ、室温保存してください。
細胞数<腹水>	腹水1.0				

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PK5</b> <b>PK7</b> 	EGFR変異解析 v2.0 (血漿)	血液 10.0~ 14.0	血漿 5.0	凍結	左記の採血管で提出検体量(血漿5mL)を考慮した充分量を採取し、採血後、4時間以内に必ず血漿分離してください。 分離後、直ちに滅菌ポリスピッツ(ARR) 2本に2.5mLずつの血漿を分取し、凍結保存してください。血漿分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐためデカンテーションを行わないでください。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体の採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
内容 EDTA-2K 9.5mgまたは 13.3mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年					


容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PKF</b> 旧容器記号 <b>g1</b> 	ビタミンB <sub>1</sub>	血液 (EDTA-2K加) 各0.5			左図の容器に採血し、よく混和させ、凍結保存してください。
	<b>遮光</b> ビタミンB <sub>2</sub>				
	シクロスポリン	血液 (EDTA-2K加) 各0.7		凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血液のまま凍結保存してください。 他の検査項目との同時依頼はできませんのでご注意ください。
	タクロリムス				
	エベロリムス				
EDTA-2K入り (真空採血量2mL)					
内容 EDTA-2K 3.6mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年					

# 容器の取り扱い方法



容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PN2</b> <b>PN5</b> 旧容器記号 <b>C</b></p>  <p>2mL用 (PN2)</p>  <p>5mL用 (PN5)</p>	<p>EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL)</p> <p>内 容 EDTA-2Na 3.0mgまたは7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年</p>	血液 各1.5~2.0	<p>冷却遠心 血漿 0.3</p>	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>速やかに冷却遠心 血漿 各0.5</p>		左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>速やかに遠心 血漿 0.3</p>	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、速やかに血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
			<p>血漿 0.3</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
			<p>血漿 0.5</p>		
			<p>血漿 0.3</p>		
			<p>速やかに冷却遠心 血漿 0.5</p>	凍結	早朝安静時に左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>冷却遠心 血漿 0.5</p>		冷蔵
			<p>血漿 各0.5</p>	早朝安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。	
			<p>血液 (EDTA-2Na加) 1.0</p>	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させた後、血液をポリスピッツに移し、必ず凍結保存してください。
			<p>血漿 各0.5</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は凍結保存してください。
			<p>冷却遠心 血漿 0.7</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>血漿 1.0</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>冷却遠心 血漿 1.2</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
			<p>冷却遠心 血漿 0.3</p>		左図の容器に採血し、よく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。




# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法	
<p>PN2 PN5 旧容器記号 C</p>  <p>2mL用 (PN2) 5mL用 (PN5)</p>	ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP)	血液 各1.5~2.0	速やかに遠心 血漿 0.6	凍結	安静時に左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存にて6時間以内に血漿分離してください。血漿は速やかに凍結保存してください。	
	PIVKA-II		血漿 0.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。	
	ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)		血漿 0.4	凍結	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。	
	鳥特異的IgG抗体		血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。	
	EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL)	ABO式血液型	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年	Rh(D因子)式血液型				
	Rh-Hr式血液型					
		直接クームス試験	血液 (EDTA-2Na加) 1.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存で速やかにご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。
		不規則性抗体	血液 (EDTA-2Na加) 2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。
		ペントラキシン3 (PTX3)	血液 各1.5~2.0	速やかに冷却遠心 血漿 0.3	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	IL-8 (インターロイキン-8)	血漿 0.5		左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。		


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p>PN2 PN5 旧容器記号 C</p>  <p>2mL用 (PN2)</p>  <p>5mL用 (PN5)</p> <p>EDTA-2Na入り (真空採血量 2mLまたは5mL)</p> <p>内容 EDTA-2Na 3.0mgまたは7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から2年</p>	FLT3/ITD 変異解析	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	<p>左図の容器に採取し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>
	Y染色体微小欠失 (AZF欠失)				
	UGT1A1 遺伝子多型解析				
	NUDT15 遺伝子codon 139 多型解析				
	HLA-A,B (血清対応型タイピング)				<p>左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 HLA検査2項目以上同時依頼の場合は血液2.0mLで検査可能です。 ただし、受給者の場合、化学療法などにより細胞数が減少し、DNAが回収できない場合がありますので細胞数<math>2 \times 10^6</math>個を最低限としてご提出ください。白血球数(WBC)1000/<math>\mu</math>Lを下回る受給者の場合は、血液2.0mL(PN2容器)を2本以上、または血液5.0mL(PN5容器)をご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p>
	HLA-A (DNAタイピング)				
	HLA-B (DNAタイピング)				
	HLA-C (DNAタイピング)				
	HLA-DR (血清対応型タイピング)				
	HLA-DRB1 (DNAタイピング)				
HLA-DPB1 (DNAタイピング)					
HLA-DQB1 (DNAタイピング)					

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法	
<b>PN5</b> 旧容器記号 <b>C</b>   EDTA-2Na入り (真空採血量5mL) 内容 EDTA-2Na 7.5mg 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	単純ヘルペスウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA 定性					
	サイトメガロウイルスpp65抗原(C7-HRP)	血液 (EDTA-2Na加) 3.0		室温	左図の容器に採血し、よく混和させ、室温保存してください。採血後速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。	
	サイトメガロウイルスDNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0			左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	
	EBウイルスDNA 定量					
	ヒトヘルペスウイルス6型 DNA 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各2.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	
	ヒトヘルペスウイルス7型 DNA 定性					
	高感度PNH型血球検査	血液 (EDTA-2Na加) 各5.0			必ず左図の容器で採血し、冷蔵保存にてご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。	
	JAK2V617F 遺伝子変異解析					
	アンドロゲンレセプター 遺伝子CAG反復配列解析					
	IL28B SNPs 解析					
	男性AIRS (認知機能評価あり)	血液 各5.0	速やかに冷却遠心	血漿 各0.5	凍結	1. EDTA-2Na入り採血チューブ(左図)にて血液約5mLを採取してください。 2. 採血直後、血液を2.3回軽く転倒混和してください。(ローラーでの混和は行わないでください。) 3. 混和後直ちに(1分以内)採血チューブを氷水中(血液の液面まで氷水につかる状態)で冷却(15分以上、遠心操作まで冷却)してください。 4. 採血から8時間以内に冷却条件で遠心分離(4℃、3000回転、15分)または通常遠心分離(3000回転、15分、ローターが昇温してないこと)してください。 5. 遠心後、直ちに上清の血漿を血液との界面に触れないように血漿上清の中央部から採取し、分注してください。 6. 分注後、血漿を4時間以内に凍結保存してください。
	女性AIRS (認知機能評価あり)					
	男性AIRS (認知機能評価なし)					
女性AIRS (認知機能評価なし)						
男性AICS(5種)						
女性AICS(6種)						

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PN7</b> 旧容器記号 <b>A</b> 	抗利尿ホルモン (AVP)	血液 各4.0~5.0	速やかに 冷却遠心 血漿 各1.5	凍結	左図の容器に採血し、速やかによく混和させ、低温(4℃)で血漿分離してください。血漿は必ず凍結保存してください。
	カテコールアミン3分画 A:アドレナリン NA:ノルアドレナリン DA:ドーパミン				
	L-ドーパ				
	ドーパミン総				
	HVA	血液 各4.0~5.0	血漿 各1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	VMA				
	セロトニン				
	5-HIAA	血液 各4.0~5.0	血漿 各1.5	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、血漿分離してください。血漿は冷蔵保存してください。
	MHPG				
	水痘・帯状疱疹ウイルスDNA定量	血液 (EDTA-2Na加) 5.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	サイトメガロウイルスpp65抗原(C10,C11)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。採血後、速やかにご提出ください。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。
	ヒトヘルペスウイルス6型DNA定量				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。


EDTA-2Na入り  
(真空採血量7mL)

内容  
EDTA-2Na  
10.5mg

貯蔵方法  
室温

有効期間  
製造から2年

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>PN7</b> 旧容器記号 <b>A</b></p>  <p>EDTA-2Na入り (真空採血量7mL)</p> <p>内 容 EDTA-2Na 10.5mg</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から 2年</p>	HTLV-1核酸検出 定性	血液 (EDTA-2Na加) 各7.0		冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	HTLV-1 プロウイルスDNA 定性				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	HTLV- I (ATLV) プロウイルスDNA (クロナリティ)				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。
	白血病キメラ スクリーニング(定量)				
	WT1 mRNA定量				
	Major BCR-ABL1 mRNA(IS)				
	Major BCR-ABL1 mRNA定性				
	Major BCR-ABL1 ABL1変異解析				
	minor BCR-ABL1 mRNA定量				左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 検体は採取後、当日中にご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	minor BCR-ABL1 mRNA定性				
	minor BCR-ABL1 ABL1変異解析				
	PML-RARA mRNA定量				
	PML-RARA mRNA定性				
	CBFB-MYH11 mRNA定量				
	RUNX1-RUNX1T1 mRNA定量				
	RUNX1-RUNX1T1 mRNA定性				
	T細胞レセプター β鎖Cβ1再構成				
免疫グロブリン H鎖JH再構成	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。				
免疫グロブリン H鎖Cμ再構成					
ジストロフィン DNA	左図の容器に採血し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。				

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>PNK</b> 旧容器記号 <b>R</b> 	保存液入り (真空採血量5mL) 内 容 保存液 0.7mL 貯蔵方法 冷蔵 有効期間 製造から 1年 (アルミシート 開封後1ヵ月)	NK細胞活性	血液 (保存液加) 5.0	冷蔵	左図の容器に採血し、よく混和させ冷蔵保存してください。 なお、リンパ球の少ない患者さんは多めに採血してください。検体は採取後、当日中にご提出ください。
<b>PSF</b> 旧容器記号 <b>P3</b> 	EDTA - 2K+ 血漿分離剤入り (真空採血量5mL) 貯蔵方法 4 ~ 25℃ 有効期間 製造から 1年	サイトメガロウイルス 核酸定量  HIV-1RNA定量	血液 各 5.0	血漿 各 1.8 凍結	指定の採取量を左図の容器に採取後、4 ~ 5回静かに転倒混和し、室温にて遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	検体の取り扱い方法																												
<p>S09</p> <p>S06</p> <p>旧容器記号</p> <p>X1</p>  <p>9mL用 (S09)</p> <p>6mL用 (S06)</p>	<p>分離剤入り (真空採血量 9mL又は6mL)</p> <p>貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年</p>	<p>生化学検査一般</p> <p>血清学的検査一般</p> <p>その他</p>	<p>適量</p>	<p>適量</p> <p>左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00 (ポリスピッツ)に血清を分注しご提出ください。検体量不足にならないようご注意ください。</p> <p>遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。(下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。)</p> <p style="text-align: center;">換算表</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>半径(cm)</th> <th>回転数(rpm)</th> <th>半径(cm)</th> <th>回転数(rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>4200</td> <td>22</td> <td>2800</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3800</td> <td>24</td> <td>2700</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3500</td> <td>26</td> <td>2600</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>3300</td> <td>28</td> <td>2500</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>3100</td> <td>30</td> <td>2400</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>3000</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)	10	4200	22	2800	12	3800	24	2700	14	3500	26	2600	16	3300	28	2500	18	3100	30	2400	20	3000		
半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)																													
10	4200	22	2800																													
12	3800	24	2700																													
14	3500	26	2600																													
16	3300	28	2500																													
18	3100	30	2400																													
20	3000																															

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法	
<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="display: flex; gap: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">S3F</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">S5F</div> </div> <p>旧容器記号</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">P1</div>    <p>3mL採血用 (S3F)</p>    <p>5mL採血用 (S5F)</p> </div>	HBV DNA定量 (IU)	血液 5.0	血清 1.8		指定の採取量を左図の容器に採取後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。凝固完了を確認後、遠心分離しそのまま凍結してご提出ください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。	
	凝固促進剤＋血清分離剤入り (真空採血量 3mLまたは5mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年	HCV RNA コアジェノタイプ	血液 3.0	血清 0.5		凍結
		HCV RNA定量	血液 5.0	血清 1.8		



# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	検体の取り扱い方法																												
<p>S9P S7P 旧容器記号 X2</p> <p>10mL用 (S9P)</p> <p>7mL用 (S7P)</p>	<p>分離剤なし (真空採血量 10mL又は7mL)</p> <p>貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年</p>	<p>薬物検査 その他</p> <p>適量</p>	<p>適量</p>	<p>左図の容器に、検査項目に応じて必要量を採血した後、4～5回静かに転倒混和し、室温にて30～60分放置してください。 血液の凝固を確認後、遠心分離し容器A00 (ポリスピッツ)に血清を分注しご提出ください。</p> <p>遠心分離は、2000Gで10分間遠心してください。 (下表は2000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示しています。)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>換算表</caption> <thead> <tr> <th>半径(cm)</th> <th>回転数(rpm)</th> <th>半径(cm)</th> <th>回転数(rpm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>4200</td> <td>22</td> <td>2800</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3800</td> <td>24</td> <td>2700</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3500</td> <td>26</td> <td>2600</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>3300</td> <td>28</td> <td>2500</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>3100</td> <td>30</td> <td>2400</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>3000</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)	10	4200	22	2800	12	3800	24	2700	14	3500	26	2600	16	3300	28	2500	18	3100	30	2400	20	3000		
半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)																													
10	4200	22	2800																													
12	3800	24	2700																													
14	3500	26	2600																													
16	3300	28	2500																													
18	3100	30	2400																													
20	3000																															
	<p>不規則性抗体</p>	<p>血液 10.0</p>		<p>左図の容器に採血し、冷蔵保存してください。 他項目との重複依頼は避けてください。</p>																												


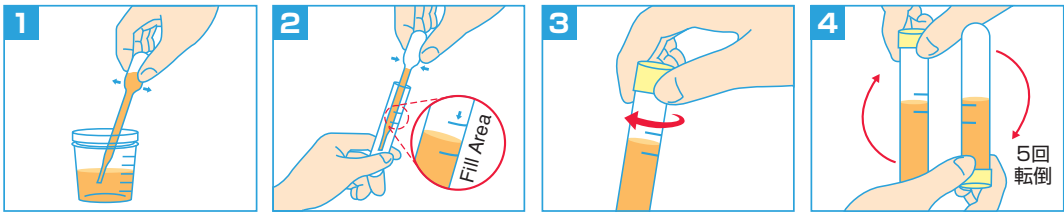
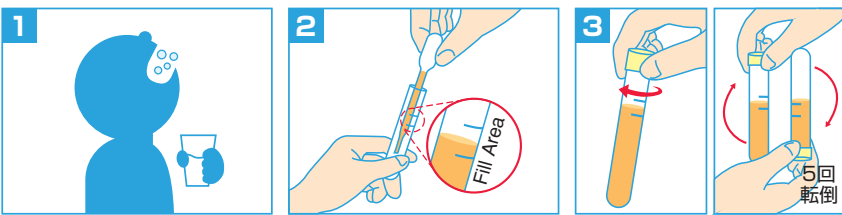
# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<p><b>SZZ</b> 旧容器記号</p> <p><b>e</b></p> 	<p>血清分離剤 凝固促進剤入り (真空採血量3mL)</p> <p>内 容 トロンピン ヘパリン中和剤</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 製造から 1年</p>	<p>アルミニウム(AI)</p> <p>血液 2.5~3.0</p>	<p>血清 0.6</p>	<p>冷蔵</p>	<p>コンタミネーション防止のため、シャントから滴下または真空採血してください。採血後は直ちに充分転倒混和し、遠心分離後そのまま冷蔵保存にてご提出ください。</p>

## 容器形態

<p><b>U00</b> 旧容器記号</p> <p><b>Y</b></p>	<p>貯蔵方法 室温</p>		<p>尿用容器</p>		
---	----------------	--	-------------	--	--

# 容器の取り扱い方法


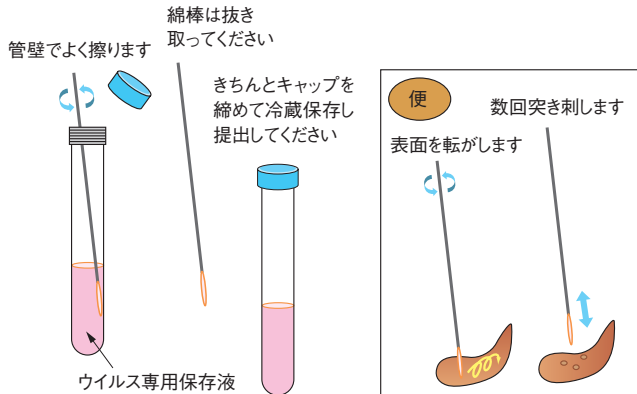
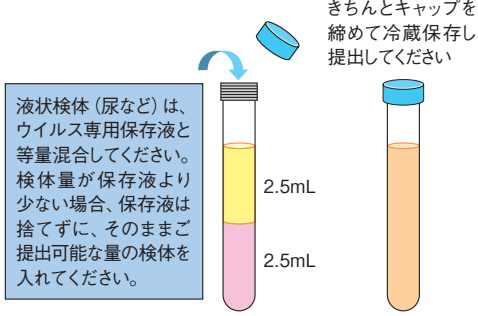
容器形態	検査項目	保存
<p><b>U10</b> 旧容器記号 <b>Y1</b> 滅菌スポイト 滅菌カップ</p>  <p>内容 グアニジン塩酸塩 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年</p>	<p><b>クラミジアトラコマティスDNA 淋菌DNA 淋菌およびクラミジアトラコマチスDNA同時同定 脛トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出</b></p> <p>●尿検体からの採取 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過後の初尿を採取してください。 ① 滅菌済みカップに初尿を採取し、滅菌済みスポイトを用いて初尿を専用容器に移します。 ② 専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えてください。 ③ 専用容器のキャップをしっかりと閉めてください。 ④ 専用容器を5回転倒混和して室温にて提出してください。</p>  <p>[検体採取にあたっての注意事項] 腔潤滑剤、クリーム、ゲルなどカルボマー(カルボキシルビニルポリマー)を含む製品は、検査結果に影響する可能性があるため、子宮頸管擦過物および尿の採取中または採取前には使用しないようお願いいたします。</p> <p>●うがい液検体からの採取 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けてください。 ① 滅菌生理食塩水をカップに15~20mL入れ口に含み、顔を上に向けて10~20秒間、勢いよくうがいを行います。 ② うがい液全量をカップに回収し、スポイトで専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように添加します。 ③ 専用容器のキャップをしっかりと閉め、5回転倒混和して室温保存にて提出してください。 ※ただし「脛トリコモナスおよびマイコプラズマジェニタリウム同時核酸検出」はご依頼できません。</p> 	<p><b>室温</b></p>


容器形態	
<p><b>U20</b> 旧容器記号 <b>Y0</b> 尿用容器 貯蔵方法 室温</p>	 <p>プレグナンジオール、プレグナントリオール</p>

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>U50</b> 旧容器記号 <b>Y5</b>  保存剤入り (容器容量10mL) 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中ミオグロビン [CLEIA]		部分尿 6	冷蔵	採取した尿を速やかに専用容器(U50)のラベルに印刷してある線まで入れ、よく混和させ冷蔵保存にてご提出ください。 凍結保存は避けてください。
<b>U70</b> 旧容器記号 <b>Y7</b>  Tris+Hcl入り (容器容量10mL) 内 容 1.5M Tris-Hcl 0.5mL 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年	尿中IV型コラーゲン		部分尿 5	冷蔵	早朝一番尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和させ、冷蔵保存してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避けてください。
<b>U80</b> 旧容器記号 <b>Y8</b>  保存液入り (容器容量10mL) 内 容 尿安定化剤 貯蔵方法 遮光・室温 有効期間 製造から 2年6ヵ月	尿中核マトリックス プロテイン22 (NMP22)	部分尿 適量 (別容器)	速やかに遠心 部分尿 (上清) 5	冷蔵	採取した尿を速やかに遠心し、その上清を専用容器の採尿範囲まで入れ、よく混和してください。 凍結保存および他項目との重複依頼は避け、冷蔵にてご提出ください。
<b>U90</b> 旧容器記号 <b>b2</b>  抗プラスミン剤入り 内 容 アプロチニン 精製セラチン デヒドロ酢酸 ナトリウム 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 2年 (アルミ包装 開封後1週間)	FDP定量	部分尿 (新鮮尿) 2	部分尿 (上清) 0.5	凍結	新鮮尿を採取し、左図の容器に注入し、よく混和後、3000rpm5～10分間遠心分離してください。 上清(部分尿)は必ず凍結保存してください。

# 容器の取り扱い方法


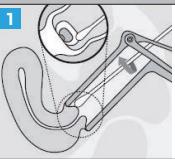
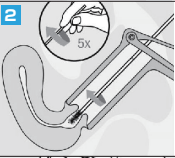
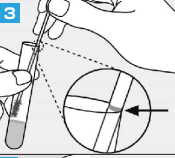
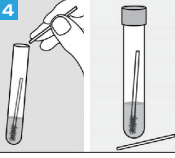
容器形態	検査項目	保存	検体の取り扱い方法
<p data-bbox="252 280 351 385"> <b>V10</b>            旧容器記号  <b>V</b> </p>  <p data-bbox="188 981 462 1079"> <b>ウイルス専用 保存液入り</b>            貯蔵方法 <b>冷蔵</b>            有効期間 <b>製造から6ヵ月</b> </p>	<p data-bbox="513 548 673 582"><b>ウイルス分離</b></p>	<p data-bbox="778 851 801 896" style="writing-mode: vertical-rl;">冷蔵</p>	<p data-bbox="821 291 1460 369"> <b>●患部ぬぐい液・水疱内容・糞便 など</b>            滅菌綿棒でぬぐい、下図の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存してください。         </p>  <p data-bbox="821 403 973 459">管壁をよく擦ります</p> <p data-bbox="981 403 1093 459">綿棒は抜き取ってください</p> <p data-bbox="1029 470 1181 548">きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出してください</p> <p data-bbox="893 772 1053 795">ウイルス専用保存液</p> <p data-bbox="1204 470 1460 560"> <b>便</b> 数回突き刺します            表面を転がします         </p>
	<p data-bbox="513 1160 673 1193"><b>ウイルス同定</b></p>		<p data-bbox="821 862 1460 940"> <b>●尿・髄液・胸水・鼻汁 など</b>            下図の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存してください。         </p>  <p data-bbox="1228 974 1388 1041">きちんとキャップを締めて冷蔵保存し提出してください</p> <p data-bbox="917 1064 1109 1265">           液状検体 (尿など) は、ウイルス専用保存液と等量混合してください。検体量が保存液より少ない場合、保存液は捨てずに、そのまま提出可能な量の検体を入れてください。         </p> <p data-bbox="1165 1142 1220 1176">2.5mL</p> <p data-bbox="1165 1220 1220 1254">2.5mL</p> <p data-bbox="821 1332 1460 1422"> <b>●組織</b>            組織小片 (5mm角程度) をウイルス専用保存液に入れ、冷蔵保存してください。         </p>

容器形態	検査項目	保存
<p><b>V30</b> 旧容器記号 <b>W1</b></p>  <p>貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年</p>	<p style="text-align: center;"><b>単純ヘルペスウイルス特異抗原 水痘・帯状疱疹ウイルス抗原</b></p> <p>●<b>検体の採取方法</b> 病巣基底細胞が多数得られるように採取してください。 早期の水疱病巣が検体として最適です。水疱内容液および膿は、検体として不適当です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①滅菌針を用いて、上部の皮あるいは痂皮を剥がします。(図1)</li> <li>②病巣を覆っていた上部の皮を、ピンセットなどで除去します。(図2)</li> <li>③綿棒を精製水や生理食塩水で軽く湿らせます。</li> <li>④ウイルス感染細胞は、病巣基底部にありますので、病巣基底部全面を綿棒で強くぬぐいます。(図3)</li> </ol> <p>●<b>注意</b> 膿がでている場合には綿棒でまず膿をぬぐい去り、別の綿棒で検体を採取してください。この時、病巣基底部をかき乱さないよう注意してください。</p> <p>●<b>操作法</b></p> <p>●<b>検体の塗抹</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①綿棒を回転させながらスライドガラスの2個の円内に塗りつけます。このとき綿棒は、スライドガラスに平行にして、全表面が触れるように塗抹します。不均一にならないように注意してください。(図4)</li> <li>②綿棒をずてる前に検体が均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていれば不透明に見えます。透明に見える部分があれば、そこへ綿棒をあてて再び塗抹します。</li> <li>③そのまま風乾します。</li> <li>④乾燥したスライドガラス上に充分な量(検体にゆきわたる)のアセトンを追加し、蒸発させます。 ・検体はスライドガラス2枚をご提出ください。</li> </ol> <p>●<b>検体の保存</b> 乾燥後のスライドガラスは、塗抹面を下にし、オブジェクトケースに入れ、検査項目名、病院名、氏名などを記入後、凍結保存してください。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="368 880 619 1037"> <p>図1</p> </div> <div data-bbox="627 880 877 1037"> <p>図2</p> </div> <div data-bbox="885 880 1136 1037"> <p>図3</p> </div> <div data-bbox="1144 880 1394 1037"> <p>図4</p> </div> </div>	<p><b>凍結</b></p>


# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法
<div data-bbox="256 277 360 387" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;"> <b>V41</b>                      旧容器記号  <b>f6</b> </div> <div data-bbox="217 667 395 996" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="124 1294 435 1395">                         内 容                          メタノール55%                          貯蔵方法 室温                          有効期間 製造から 1年6ヵ月                     </p>	ヒトパピローマ ウイルスDNA (16型、18型、その他 ハイリスクグループ)	室温	<div data-bbox="837 264 1136 465" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="1141 309 1476 421">                         ①子宮頸部の細胞を採取する                          綿棒以外の採取器具(ブラシ、                          スパーテル)を用いて細胞を採                          取してください。                     </p>
	ヒトパピローマ ウイルスDNA (ハイリスクグループ) (LBC)		<div data-bbox="837 470 1136 672" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="1141 492 1476 649">                         ②細胞を洗い落とす                          採取器具を容器に入れ、容器                          の底で採取器具の先端が広がる                          ように10回程度押し付けた                          後、強くかき回して採取した                          細胞を洗い落としてください。                     </p>
	ヒトパピローマ ウイルス(HPV) ジェノタイプ判定		<div data-bbox="837 676 1136 878" style="text-align: center;">  </div> <p data-bbox="1141 676 1476 878">                         ③しっかりフタを閉める                          採取器具を取り出し、蓋の黒                          いラインが容器本体の黒いラ                          インを左に超えるように、しっ                          かり蓋を閉め、保存してくだ                          さい。                          (注)採取器具の先端は容器に残                          さないでください。                     </p>
	細胞診[婦人科ベセスダ システム](ThinPrep)		<p data-bbox="837 1070 1476 1299"> <b>[ご注意]</b>                          妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、ス                          パーテルなどの採取器具の使用は避け、綿棒を使用してくださ                          さい。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採                          取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液                          中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容                          器には綿棒の先端を残さないでください。また、綿棒では無理                          な力がかかりますと折れる可能性がありますので充分にご注意く                          ださい。                     </p>
	細胞診 (婦人科ThinPrep)		
細胞診 (尿ThinPrep)			

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	保存	採取方法
<b>V50</b> 旧容器記号 <b>F3</b> 	クラミジア トラコマティス DNA	通称	 <p>1 スwab検体採取セット付属のドライスワブで子宮頸管とその周辺部の過剰な粘液を充分拭い取ります。このスワブは廃棄します。</p>
	淋菌DNA		 <p>2 付属のフロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向に5回そっとスワブを回し、腔の粘液に触れないように注意してスワブを引き抜きます。</p>
	淋菌およびクラミジア トラコマチスDNA 同時同定		 <p>3 専用容器のキャップを開け、採取したフロックスワブの先端が容器内の溶液に浸からないように注意しながら入れ、柄につけられた線を容器の縁に合わせます。</p>
	腔トリコモナスおよび マイコプラズマジェニタリウム 同時核酸検出		 <p>4 専用容器の縁を利用してフロックスワブの柄につけられた線で折り入れ、手元に残った折られた柄は廃棄します。専用容器のキャップをしっかり閉め、室温保存で提出してください。</p>
	内 容 グアニジン塩酸塩 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から1年		

## 容器形態

<b>V60</b> 旧容器記号 <b>W3</b>	内 容 保存液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から3年	
一般用	妊婦用	
<p>ヒトパピローマウイルスDNA(ハイリスクグループ、ローリスクグループ)  <b>[ご注意]</b> 検体採取時に無理な力がかかると、綿棒が折れる可能性がありますので、充分ご注意ください。</p>		



# 容器の取り扱い方法

## 容器形態

**VP0**


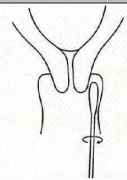
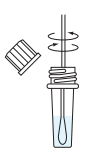
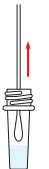


病理専用容器

旧容器記号

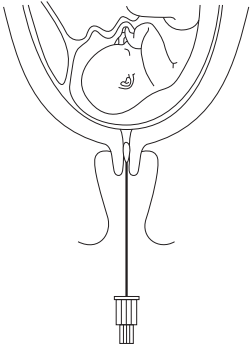
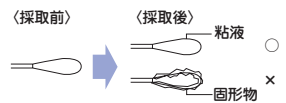



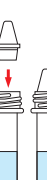

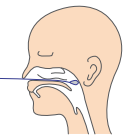
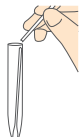

**u5**




20%ホルマリン液を充填してお使いください。  
貯蔵方法 室温

容器形態	検査項目	保存	採取方法
<p><b>VP5</b> 旧容器記号 <b>W5</b></p>  <p>内容 抽出液 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 1年</p>	<p>ヒト癌胎児性 フィブロネクチン</p>	<p>凍結</p>	 <p>専用綿棒を後腔円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。 ※腔表面を強くこすらないでください。 ※粘液は混入させないでください。</p>
			 <p>検体抽出容器の紫色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意してください。)</p>
			 <p>綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。</p>
			 <p>検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。</p>
			 <p>検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて必ず凍結保存してください。</p>
<p>●<b>注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検体の採取は腔洗浄前に行ってください。</li> <li>検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないでください。</li> <li>検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。</li> <li>検体は後腔円蓋から採取してください。</li> <li>腔表面を強くこすらないように注意してください。</li> </ul>			

# 容器の取り扱い方法




容器形態	検査項目	保存	
<b>VP6</b> 旧容器記号 <b>W6</b>	子宮頸管粘液中 顆粒球エラストラーゼ	凍結	
	<b>採取方法</b>		
	正しい採取部位 	子宮腔部の粘液を綿球で丁寧に拭い取ります。  綿球を子宮頸管内腔に挿入します。注3)  綿棒をゆっくりと2回転させ、頸管粘液を採取します。注4)	<b>●注意事項</b> 1) 子宮頸管部より採取してください。 2) 検体採取は腔部洗浄前に行ってください。 3) 綿棒が外子宮口周辺の分泌物や粘液に接触しないようにしてください。綿棒の先が初めて接触する部分が頸管内腔であるように挿入してください。 4) 綿棒1回転あたり約5秒をかけ、自然に粘液を浸み込ませるようにしてください。少量の固形物が付着した場合には、接子などで取り除いてください。  5) 採取した検体は15分以内に抽出作業を行ってください。 <b>【ご注意】</b> 検体採取時に無理な力が掛かりますと、綿棒が折れる可能性がありますので充分ご注意ください。
	<b>抽出方法</b>		
	①  抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。	②  頸管粘液を採取した綿棒を浸けて、2～3分間放置します。その後、綿棒を20～30回細かく上下させて検体を抽出します。	③  綿棒に浸み込んだ検体抽出液を抽出容器ごと指で押しつぶす等して絞り出した後、綿棒を取り除きます。
④  フィルターをセットします。	⑤  検体抽出液を検体保存容器へ濾過します。この時の加圧は1回のみとし、5～7滴(約300μL)を分取します。必要量が得られない場合は検体採取からやり直してください。検体保存容器に白色キャップをして保存します。冷蔵(8℃)で3日以内、凍結(-15℃以下)で3ヵ月以内に測定してください。		
内容 抽出液 (リン酸バッファー) 貯蔵方法 室温 (抽出液は冷蔵) 有効期間 製造から 1年			
容器形態	検査項目	保存	
<b>VS4</b> 旧容器記号 <b>k9</b>	百日咳菌DNA	凍結	
	<b>採取方法</b>		
	1. 綿球部分に触れないように、スワブの軸部分をつまんで取り出します。		
		2. 被験者の頭を動かさないようによく押さえ、その後、スワブを後鼻腔に静かに挿入して粘液を採取します。	
		3. 速やかにスワブを滅菌ポリスピッツ(ARR)の中に入れ、スワブの柄にあるスリットを容器の縁にあてて折ります。	
	4. スワブを入れたまま容器のキャップをしっかり閉め、凍結保存にて提出してください。		
貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 5年			

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>X00</b> 旧容器記号 l  滅菌喀痰採取容器 貯蔵方法 室温	結核菌群核酸同定 [TRC]	喀痰 各2.0		冷蔵	本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
	MAC核酸同定 [TRC]				
	ニューモシスチスカリニ (P.jirovecii) DNA				
	マイコプラズマニューモニエDNA				
	レジオネラDNA 定性	喀痰1.0		凍結	他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。
一般細胞診(喀痰)	喀痰2.0		冷蔵		


容器形態	容器形態
<b>X10</b> 旧容器記号 f 細胞診(喀痰集細胞法) 内容 サコマノ氏液、粘液融解剤 貯蔵方法 室温(冷暗所) 有効期間 製造から1年 	<b>XC0</b> 旧容器記号 L2 貯蔵方法 室温  結石専用容器

# 容器の取り扱い方法

容器形態	検査項目	採取量 (mL)	提出量 (mL)	保存	検体の取り扱い方法
<b>XR4</b> 旧容器記号 <b>L4</b> 	貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 4年	コクリン-トモプロテイン (CTP)	中耳洗浄液 0.3	凍結	左図の容器に採取し、必ず凍結保存してください。
<b>XR5</b> 旧容器記号 <b>L6</b> 	CSF容器 貯蔵方法 室温 有効期間 製造から 3年	β-アミロイド 1-42/1-40比  リン酸化タウ  総タウ蛋白(AD)	髄液 各2.5	冷蔵	左図の容器に採取し、必ず冷蔵保存してください。
<b>Z10</b> 旧容器記号 <b>t</b> 	[オブジェクトケース] プレパラート (スライドグラス)  貯蔵方法 室温	骨髓像  好中球アルカリ フォスファターゼ (AL-P染色スコア)  鼻汁中好酸球  c-kit遺伝子 変異解析(GIST)  一般細胞診 (喀痰)  一般細胞診 (喀痰以外)  細胞診[婦人科 ベセスダシステム]  細胞診(婦人科)  標本解析	骨髓塗抹標本 5枚  血液塗抹標本 3枚  鼻汁塗抹標本 1枚  未染標本スライド ・腫瘍部位確認用 切片の厚さ 3.4μm:2枚 ・DNA抽出用 切片の厚さ 10μm:5~10枚  塗抹標本 (湿固定2枚)  塗抹標本 (湿固定1~2枚、 乾燥固定1~2枚)  塗抹標本 各(湿固定1枚)	室温	骨髓塗抹標本をご提出ください。 室温保存してください。  標本は新鮮血で作製し、抗凝固剤は使用しないでください。 アルカリフォスファターゼ固定方法 -3~-5℃の固定液(ホルマリン原液10mL+ 純メタノール90mL+1%酢酸1mL) (pH4.8) に5秒間浸漬、水洗15秒、乾燥。 室温保存してください。  標本は新鮮鼻汁で作製しご提出ください。 室温保存してください。  未染標本スライドを作製し、スライドのおもてに切片の厚さを記入し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。ご依頼の際は、必ず「腫瘍部位確認用検査」を併せてご依頼くださいますようお願いいたします。  塗抹標本を作製し、左図のオブジェクトケースに入れ、室温保存にてご提出ください。

# 容器の取り扱い方法

## 遺伝子関連検査の未染標本スライド提出に際しての留意事項

容器形態	検査項目	未染標本スライド (枚)	厚さ ( $\mu\text{m}$ )	検査に必要な 腫瘍細胞割合	保存	
<b>Z10</b> 旧容器記号 t 	EGFR変異解析 v2.0	5～10	10	10%以上	室温	
	[オブジェクトケース] プレパラート (スライドグラス)	5	5	30%以上		
	貯蔵方法 室温	RAS・BRAF遺伝子変異解析	5	5～10		10%以上
	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査 (FFPE)	5～10	5	50%以上		
<b>採取方法</b>						
<p>●提出条件 未染標本スライドは、病理組織学的な評価がなされ、腫瘍細胞が検査に必要な割合以上存在することを確認してください。腫瘍細胞割合が満たない場合には、未染標本スライドの裏面から腫瘍細胞領域をマーキングしてください。マーキングがされないまま提出されますと、マクロダイセクションができず、偽陰性など判定結果に影響を及ぼす可能性がありますので、あらかじめご了承ください。なお、マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(FFPE)においては、検査の特性上、腫瘍部と正常部を区分する必要がありますので、必ず腫瘍細胞領域のマーキングをお願いします。</p> <p>●未染標本スライドについて 採取された組織は速やかに10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬し、固定を行ってください(推奨固定時間は6～48時間)。ご提出の際には、可能な限り3年以内に作製したホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)ブロックより、指定の厚さにて連続切片を作製してください。なお、薄切時には検体ごとにミクローム刃を交換するなど、コンタミネーションに充分ご注意ください。また、組織のホルマリン固定により核酸が断片化されているため、固定液の種類や組成、固定時間、固定後の検体の保存状態によっては、解析不可能となることがありますので、あらかじめご了承ください。</p> <p>●生検標本について 生検標本は検体が微量であることが多く、組織自体がほとんど消失している場合や、腫瘍細胞が含まれていない組織片になっている可能性がありますので、あらかじめご注意ください。</p>						

# 新規検査項目記入欄

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値(単位)	備考